

松本市郊外部におけるツアートリップを考慮した路線バスの検討

平成 29 年 2 月 熊井 亮太

要旨

目的

松本市中山地区において利用者の減少などの理由から既存の路線バスが廃止された。これを受け、この地区では松本市の支援を受けながら新たな公共交通を計画・運用することになった。その際、計画の段階で地域の需要を把握しそれに沿ったものを新たに運用しなければ維持し続けていくことは困難である。そこで、本研究では中山地区の交通需要を把握し、そこから新たな公共交通についての検討・提案を行う。

方法

事前に中山地区において実施された今後の公共交通に関する意向の把握調査の結果を用いて調査データの集計を行い、バスの運行形態と中山地区からどの方面へバスを運行させるべきか検討した。次に、詳細な交通需要を把握するため、外出時の一連の動きであるツアートリップを通勤や通学、通院、買物、その他目的といった目的の組み合わせごとに分類し分析した。これらの結果を用いて中山地区の交通需要に沿った公共交通を提案する。

結果

調査データを集計した結果、中山地区から松本市街地方面へ既存路線に沿うような定時定路線型のバスを運行すべきということが判明した。次にツアートリップを分析した結果、通院を目的とする場合では通院する病院の規模の違いから帰宅時刻が大きく異なっていることや、買物などを目的としている場合では既存のバス停からでは遠い施設を目的地としている需要が一定数存在するように、外出目的ごとに交通需要を把握することができた。以上の分析から得られた交通需要を最大限満たすような路線バスの運行ルートや運行時刻を策定することにより、中山地区住民に対して利便性の高い路線バスを提案することができた。

指導教員 高瀬 達夫 准教授